

ワークショップの運営及びプログラムに関する現状の把握、

課題・問題点の抽出・明確化と改善策の策定

平成 23 年度に実施した指導薬剤師を対象とするアンケート調査の結果、WS 委員会委員、各地区推薦の大学教員や指導薬剤師を対象とするアンケート調査、シニアタスクフォース派遣によって得られた各地区のWSに関する調査の結果と、平成 24 年度に実施したタスクフォースの派遣・交流によって得られた各地区のWSに関する調査の結果を詳細に解析することにより、WSの運営及びプログラムの現状の把握と、課題及び問題点の抽出・明確化を行った。さらに、これらの課題及び問題点について、今後指導者としての意識と指導能力の向上を図るための改善策の策定を行った。このうち、本年度に取り組むべき課題及び問題点に対する改善策については、別途アクションプランの作成を行い（資料 3）、それぞれ改善に着手した。

1. ワークショップの運営について

(1) 会場

【現状・課題・問題点】

- 会場へのアクセス、環境、広さ、設備、会場配置等については、すでに複数回ワークショップを実施している会場を使用する場合はほとんどであり、大きな問題は認められない。
- 新規に開催する会場については、上記のような条件について、参加者がワークショップに集中できるように十分配慮する必要がある。
- セッションの作業説明をパワーポイントに変更した場合は、今後OHPを使わない参加への連絡、情報提供を行う必要がある。

【今後の対応・改善策】

- 基本的な会場の条件について、新規に使用する会場においても円滑かつ効果的にWSが実施されるように、また各地区で多少異なる条件についても可能な限り統一すべく、モデル的な会場配置図や留意事項を含めた「ガイドライン」を作成、周知する。
- 各地区で工夫し、効果をあげている点について情報の共有化を行い、普及を図る。
- OHPに代わる参加者への連絡、情報提供については、黒板、ホワイトボード、紙媒体等を用いている地区があり、会場の設備に応じた方法について上記「ガイドライン」に記載する。

(2) 運営

【現状・課題・問題点】

- 昨年度まで認められた大学主催のWSについては、本年度は各地区調整機構主催に改められ、全てのWSが地区調整機構の主催として開催された。
- 開催手続及び運営については、WS委員会がWSの実務実習指導薬剤師研修会としての質を担保するために提示した「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワ

ークショップ) 実施要項」(以下、WS実施要項)及び「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)の開催に必要な要件」(以下、WSの開催に必要な要件)に従って行われており、一部不徹底な部分は認められたが、大きな問題はなかった。

- 上記の「WS実施要項」及び「WSの開催に必要な要件」については、一部非常に煩雑な書類作成や手続きを必要とする部分があり、多くの事務作業を担わなければならないチーフタスクフォース及び事務局にさらに負担を課している状況にある。

【今後の対応・改善策】

- 上記のように、すでに各地区開催のWSの運営については大きな問題が認められず、定められた基準に基づいて開催されているので、今後は上記のような書類作成や手続きについて簡略化し、チーフタスクフォース及び事務局の負担軽減を図る。

(3) ディレクター

【現状・課題・問題点】

- ディレクターについては、「WSの開催に必要な要件」に“薬学教育協議会代表理事に加え、WSを開催する地区の調整機構の長とし、これに共同主催者である都道府県薬剤師会、都道府県病院薬剤師会、薬学部を設置する大学及び薬科大学等(以下、共同主催者)の長を加えること”と示されているが、実際にはWS間で統一されていないことが明らかとなった。
- 各地区のWSにおいて、主催者は地区調整機構で統一されているが、共同主催者が異なることが上記のようにディレクターがWS間で統一されていないことの原因である。この点については、薬学教育協議会代表理事名と主催者である地区調整機構長がディレクターになっており、しかもWSの質が担保されていれば、ディレクターを統一する必要はない。
- ディレクターは初日挨拶を行ったが、WSを通しての参加していない場合がある。WSの開催責任者であるので、2日間参加することが望ましい。
- WS開催は6年制薬学教育の要であるはずだが、関係者全員の意識が十分に高まっていない。したがってWS自体は問題なく実施できていても波及効果は限定的である。ディレクターを務めるトップの意識を高める必要がある。

【今後の対応・改善策】

- ディレクターはWSの責任者として2日間参加するように各地区に提言する。
- ディレクターを中心に各地区での薬剤師育成教育の充実を図るように各地区に提言する。

(4) チーフタスクフォース

【現状・課題・問題点】

- 概ね、チーフタスクフォースはその役割を十分果たしているが、一部に「WSの開催に必要な要件」に記載がある“WS企画責任者の経験、またはWS世話人(タスクフォース)としての豊富な経験がある者であること”という要件を十分に満たさないと考えられるチーフタスクフォースが任用されている場合が見受けられる。チーフタスクフォースの役割はWSの質を担保する上で非常に重要であるので、このようなことが内容に改善すべきである。

【今後の対応・改善策】

- 各地区において上記の指針に従ってチーフタスクフォースに任用できる大学教員及び病院・薬局薬剤師を決め、薬学教育協議会に届ける仕組みを作る。

- 全国規模のタスクフォーススキルアップ集会を開催し、チーフタスクフォースの役割を果たすことができるタスクフォースの養成を行う。

(5) 事務局

【現状・課題・問題点】

- 地区調整機構の事務局が主体となる場合や、開催都道府県の薬剤師会・病院薬剤師会、あるいは開催大学が単独あるいは共同で事務局を務める場合が認められる。実際には、事務局の主体となる組織や構成の違いによって事務に支障が生じている地区はないことから、これについても統一する必要はないと考えられる。

【今後の対応・改善策】

- 参加者やタスクフォースとの事務連絡については、各地区で様々な工夫が行われているので、これらに関する情報の共有化を図ることによって、さらに事務を円滑に行うことが可能になると考えられる。

(6) Pの責任者

【現状・課題・問題点】

- 概ね、Pの責任者の役割は十分に果たされているが、一部にP会場の責任者の役割を十分に果たしていない場合が見受けられる。チーフタスクフォース同様、P会場の責任者の役割はWSの質を担保する上で非常に重要であるので、このようなことが内容に改善すべきである。

【今後の対応・改善策】

- チーフタスクフォースに準じて、P会場の責任者に任用できる大学教員及び病院・薬局薬剤師を決め、薬学教育協議会に届ける仕組みを作る。
- 全国規模のタスクフォーススキルアップ集会を開催し、Pの責任者としての役割を果たすことができるタスクフォースの養成を行う。

(7) Sの責任者

【現状・課題・問題点】

- 介入、助言をし過ぎる場合が見受けられる。
- 経験不足のため、的確なコメントができない場合が見受けられる。
- 一部で、S会場から頻繁に離れるため、的確なコメントができない場合が見受けられる。
- WSにおけるプロダクト作成においてSの責任者の役割は重要であるので、上記のような点については改善する必要がある。

【今後の対応・改善策】

- 練習会や前日の練習会の時点で、S会場でのタスクワークについて統一化を図る必要がある。
- 全国規模あるいは地区単位のタスクフォーススキルアップ集会を開催し、Sの責任者を果たすことができるタスクフォースの養成を行う。

(8) タスクフォース

【現状・課題・問題点】

- ここ数年各地区でのWSの開催回数が減少しているため、若手タスクフォースの養成が十分に行われていない。特に薬剤師のタスクフォースは、実務実習においても各地区でリーダー的な役割を果たしてもらえることが期待できるので、今後一定数を確保できるように

計画的な養成を行う必要がある。

- 女性のタスクフォースが少ない。
- 大学の実務家教員のタスクフォースが少ない。

【今後の対応・改善策】

- 地区単位で、若手で将来的にWSを主導することが期待できる人材や、薬学教育に対する意識が高い女性、実務家教員を計画的に新人タスクフォースとして養成できるような仕組みを提言する。

(9) 事前練習会

【現状・課題・問題点】

- ほとんどのWSで行われているが、行われていない場合、あるいは行われているが新人タスクフォースの練習に限定されている場合が見受けられる。事前練習会は、タスクフォースのセッションの説明の練習だけでなく、スケジュール確認やタスクワークに対する共通認識を得るために有用であることから、改善する必要がある。

【今後の対応・改善策】

- タスクフォースの参加要件として、WSの当日2日間だけでなく、事前練習会及び前日の準備・練習会を含めて参加可能であることを周知し、可能な限り多くのタスクフォースが集まって練習会を行うよう各地区に提言する。

(10) その他

【現状・課題・問題点】

- 「WS実施要項」及び「WSの開催に必要な要件」について、各地区のワークショップの共同開催組織に十分に伝達されていない事例が見受けられる。

【今後の対応・改善策】

- 再度各地区におけるWSの運営・実施状況を十分調査し、“薬学教育者WS”としての質を損なうことなく、かつ各地区の実態に合わせた柔軟な運用ができるように、「WS実施要項」及び「WSの開催に必要な要件」の見直しを図る。さらにこれらについては、今後WS委員会により各地区調整機構への伝達を徹底し、また薬学教育協議会のホームページに掲載して周知徹底を図る。

2. ワークショップで実施されているプログラムについて

(1) オリエンテーション

【現状・課題・問題点】

- WSのスケジュール説明だけでなく、薬学教育者としての心構えを指導するような内容も含め、WS参加の意義を強調する必要がある。
- 受講者はWSで実務実習の指導方法が修得できると期待しているので、オリエンテーションの主たる目的はカリキュラムプランニングであることを明確に説明する必要がある。
- 受講者は何もわからない状態で参加しているので、オリエンテーションの説明だけでWSの目的と流れを理解することは難しい。もう少し丁寧な説明が必要である。

【今後の対応・改善策】

- 背景として、モデル・コアカリキュラム改訂に関する情報や実務実習の効果などを入れ、さらにカリキュラムプランニングの重要性を強調するなど、WSの目的と流れがより理解し易い内容となるよう改善を図る。

(2) コンセンサスゲーム

【現状・課題・問題点】

- 現在主に用いられている「砂漠」と「月」の問題については、「NASAの見解」を知っている参加者が増えているため、別な問題を導入すべきである。

【今後の対応・改善策】

- 「NASAの見解」を知っている参加者を予め把握して適切な対処を行うことによりアイスブレイキングの意義が失われないようにする。その場合に不公平感が生じる最少得点の表彰をなくす等の工夫を行う。
- 「コンセンサスゲーム」ではなく、他のアイスブレイキングの方法（「他己紹介」、「お絵かき」など）の導入を検討する。

(3) KJ法・問題点への対応

【現状・課題・問題点】

- KJ法では、本来最も重要な“語るところを聞く”、“志を同じくするカードが集まる”という作業が、ほとんどの場合十分に行われていない。
- KJ法では、カリキュラムプランニングに入る前のセッションとして重要なグループディスカッションの重要性を認識し体験することも十分できていない。
- 問題点の対応では、発表後の説明がタスクフォースによって相当異なり、誤解を招くような説明あるいは思い入れの強い説明が見受けられるが、大きな問題ではない。

【今後の対応・改善策】

- KJ法については、タスクフォースがその意義やグループディスカッションの意義を的確に伝える必要がある。また、時間に追われる作業なので、タスクフォースによる時間のコントロールも重要である。これらのタスクワークについては、全国規模あるいは地区単位のタスクフォーススキルアップ集会を開催し、スキルアップを図る。
- KJ法に代わる問題点の抽出方法を取り入れる。有効な方法として「World Café」が考えられるので、今後トライアルによる検証を行い、有用性が認められれば、KJ法に代わるオプションプログラムとして導入を図る。
- 問題点への対応については、問題となっている点をタスクフォースの留意事項として周知することによって改善を図る。プログラムとしての変更は行わない。

(4) カリキュラムプランニング

【現状・課題・問題点】

- 「学習目標」のセッションでは、大学における薬剤師養成教育、医療現場における実務実習に対応した実践的かつ教育効果が高い学習目標の立案方法、特にGIOやSBOsを作成する上での動詞の効果的な使い方について修得できるようにすべきである。
- 「学習方略」については、受講者のニーズは、実務実習のモデル・コアカリキュラムに合わせて、臨床現場での指導に具体的に活用できる学習方略の立案方法の修得にある。しかし、現状の「学習方略」のセッションでは、時間的な制約や予備検討の不足により、こういった立案方法の修得は十分にできていない。
- 「教育評価」については、受講者のニーズは、実務実習のモデル・コアカリキュラムに合わせて、臨床現場での指導に活用できる教育効果が高い教育評価の実施方法、特に実務実習現場における形成的評価や総括的評価の方法の修得にある。しかし、「教育評価」のセッションでは、あくまで「学習目標」のセッションで策定した学習目標の到達度をバーチャルに評価するための評価項目の策定であり、WSでは実習現場の学生の学習状況に合

わせた評価方法の修得は難しい。

【今後の対応・改善策】

- 全国規模のアドバンストWSを開催し、実践的かつ教育効果が高い学習目標の立案方法、特に学習目標作成の際の動詞の使い方の重要性と的確な選定方法について、タスクフォースのスキルアップと参加者を介した各地区でのプロダクトへの反映を図る。
- 「学習方略」のセッションについて、S会場での作業時間の延長や、カリキュラムプランニングを行う前に「学習方略」作成に関する予備的な作業を行うことにより、受講者のニーズに対応した、臨床現場での指導に具体的に活用できる学習方略の立案方法の修得を可能にする。
- 各地区で指導薬剤師及び大学教員を対象に開催するアドバンストWSで実施することにより、受講者のニーズに対応した臨床現場での実務実習の指導に具体的に活用できる教育効果が高い教育評価の実施方法の修得を図る。

(5) コンサルタントによる医療人教育改革に関する講演

【現状・課題・問題点】

- 医学教育・医療人教育の経験が豊富なコンサルタントが担当する講演については、主に昭和大学の中島先生、木内先生にお願いしており、また独自の演者を設定している地区もある。一方で、中島先生の講演のDVDを使用している地区も複数ある。

【今後の対応・改善策】

- 現在、コンサルタントによる講演が可能な地区はそのまま継続し、中島先生の講演のDVDを使用している地区については、地区のWS主催者とWS委員会が協力して、独自にコンサルタントをお願いできる方を設定する。ただし、医師であることを原則とする。

(6) ワークショップの歩みと薬学教育改革に関する講演

【現状・課題・問題点】

- 統一的な内容になっていない。伝達すべき情報を整理して共通性の高い講演にすべきである。
- 参加者の薬学教育や実務実習の現状や今後の展望に対する理解を深めるような講演を行うべきである。

【今後の対応・改善策】

- 全国で完全に統一する必要はないが、伝達が必須の内容については、スライドを特定し、全国で共通に使用するようにする。特に、薬学教育や実務実習の現状や今後の展望について情報提供するように留意する。
- 本講演の後に質疑応答の時間を取り、薬学教育や実務実習に関する情報の共有化を図る。

(7) ワークショップで使用する教材や配布資料について

【現状・課題・問題点】

- 平成23年度から、タスクフォースによるセッションの説明をパワーポイントで行えるように、各地区に全てのセッションの説明用ファイルを配布した。一部の地区では未だOHPを使用しているところもある。
- パワーポイントについては、セッション担当のタスクフォースが独自の書き込みを入れて使用したり、アニメーションを多用したりしており、統一できていない。
- 地区によって、Sで閲覧する補足資料の統一ができていない。
-

【今後の対応・改善策】

- 今後もパワーポイントに統一するのではなく、会場設備や機材の調達状況に合わせて、機材を選択できるようにする。
- パワーポイントについては、原則新たな書き込みを禁止した上で、スライドの順番やアニメーションは参加者が理解し易いように適宜変更可能とすることを各地区に伝達する。
- Sで閲覧する補足資料については、参加者の理解が進むように統一及び追加を行う。また、P会場で参加者に配布しファイリングしてもらった資料についても、薬学教育の現状に合わないもの、不足しているものについて精査し、必要に応じて削除、修正、追加を行う。
- 厚生労働省が出している実務実習指導薬剤師向けの指導方法のガイドラインである「薬剤師養成のための薬学教育実務実習の実施方法について」は、全国共通に配布すべきであるので、各地区に伝達する。

(8) 報告書の扱いについて

【現状・課題・問題点】

- 平成23年度以降、WS主催者からの薬学教育協議会への報告書の提出が滞っている地区がある。

【今後の対応・改善策】

- 主催者から薬学教育協議会へ報告書を提出することは「WS実施要項」に明示してあるので、必ず提出するようにあらためて各地区へ伝達する。
- 参加者のWSへ参加した意義を高めるためには、WSに提出された報告書についてフィードバックを行うことが効果的と考えられる。現状では、タスクフォースがこのようなフィードバックを担当することは負担が大きいため、実施に向けて効率的かつ効果的な方法について検討を行う。

資料 6

薬学教育協議会

第1回全国薬学教育者アドバンスワークショップ

(タスクフォーススキルアップ集会)

資料 6-1

プログラムと実施体制・参加者

1. プログラム

薬学教育協議会第1回全国薬学教育者アドバンスワークショップ
(タスクフォーススキルアップ集会)
「効果的な薬剤師教育に向けたカリキュラムの作成」

- ・日 時： 平成24年12月23日(日) 午前10時～午後5時
- ・会 場： 帝京大学薬学部(板橋キャンパス) 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

【プログラム】

10:00	P	開会
	P	・趣旨説明(5分)
	P	・自己紹介(1人10秒・10分)
10:20	P	「SBOsに使える動詞を考えてみよう」
		・作業説明(1)(10分)
10:30	S	討論・プロダクトの作成(1)(70分)
11:40	P	発表(各グループ3分)・総合討論(15分)
12:10	P	「学習目標の動詞を変えると何が変わる？」
		・作業説明(2-1)(5分)
12:15		昼食(情報交換会)(60分)
13:15	P	「学習目標の動詞を変えると何が変わる？」
		・作業説明(2-2)(10分)
13:25	S	討論・プロダクトの作成(2)(70分)
14:35	P	発表(各グループ5分)・総合討論(30分)
15:30		コーヒープレイク
15:40	P	特別講演 中島宏昭
		「ワークショップの隠し味-タスクフォースのスキルアップのために」
15:25	P	話題提供(25分)
16:50	P	講評(伊東陽子・専門官)
17:00	P	閉会

2. 実施体制・参加者

(1) 実施体制

- ・ディレクター
須田 晃治（薬学教育協議会）
- ・コンサルタント
中島 宏昭（前昭和大学医学部）
- ・オブザーバー
伊東 陽子（文部科学省高等教育局医学教育課薬学教育専門官）
政田 幹夫（日本病院薬剤師会）
久保 鈴子（日本薬剤師研修センター）
- ・タスクフォース
阿部 芳廣（慶應大学）、大野 尚仁（東京薬科大学）、
大原 整（日本薬剤師会）、木内 祐二（昭和大学）、小佐野 博史（帝京大学）、
高橋 寛（日本薬剤師会）、戸田 潤（昭和薬科大学）、
戸部 徹（薬学教育評価機構）、永田 泰造（日本薬剤師会）、
原 博（薬学共用試験センター）、平田 收正（大阪大学）
- ・事務局
薬学教育協議会、帝京大学薬学部

(2) 参加者（1P5S）

全国8地区の調整機構、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会からの推薦者40名

【Aグループ】

- ・参加者
遠藤 泰（北海道医療大学）、青柳 裕（金城学院大学）、
高野 克彦（北陸大学）、川崎 郁勇（武庫川女子大学）、
武田 泰生（日本病院薬剤師会）、小松 真紀子（日本薬剤師会）、
鵜飼 典男（日本薬剤師会）、吉田 亜賀子（日本薬剤師会）
- ・タスクフォース
阿部 芳廣、大原 整

【Bグループ】

- ・参加者
野呂瀬 崇彦（北海道薬科大学）、藤 秀人（富山大学）、
渡邊 正知（徳島文理大学香川校）、木皿 重樹（日本病院薬剤師会）、
萱野 勇一郎（日本病院薬剤師会）、
大津山 裕美子（日本病院薬剤師会）、山田 純一（日本薬剤師会）、
成重 賢司（日本薬剤師会）
- ・タスクフォース
木内 祐二、小佐野 博史

【Cグループ】

- ・参加者 諸根 美恵子(東北薬科大学)、谷 雅子(安田女子大学)、
村山 恵子(第一薬科大学)、橋本 真也(日本病院薬剤師会)、
朱亀 進司(日本病院薬剤師会)、室井 延之(日本病院薬剤師会)、
佐藤 孔治(日本薬剤師会)、隠岐 英之(日本薬剤師会)
- ・タスクフォース 戸田 潤、永田 泰造

【Dグループ】

- ・参加者 四宮 一総(日本大学)、黒野 俊介(名城大学)、
塩田 澄子(就実大学)、山田 英俊(日本病院薬剤師会)、
山本 かおる(日本病院薬剤師会)、熊谷 明知(日本薬剤師会)、
浜野 邦彦(日本薬剤師会)、上野 浩男(日本薬剤師会)
- ・タスクフォース 原 博、大野 尚仁

【Eグループ】

- ・参加者 関 俊暢(城西大学)、八巻 耕也(神戸薬科大学)、
入江 徹美(熊本大学)、谷村 学(日本病院薬剤師会)、
埜越 崇範(日本病院薬剤師会)、桂 正俊(日本薬剤師会)、
橋本 昌子(日本薬剤師会)、西 洋壽(日本薬剤師会)
- ・タスクフォース 高橋 寛、戸部 徹

<参加者>



資料 6-2

作業説明

1. セッション1 「SBOs に使える動詞を考えてみよう」
 (東京薬科大学・大野 尚仁)

薬学教育協議会
第1回
全国薬学教育者アド・バンスワークショップ
 (タスクフォーススキルアップ集会)

**効果的な薬剤師教育に向けた
 カリキュラムの作成**

2012.12.23(日) 帝京大学薬学部

スケジュール

10:00	P	開会	挨拶: 須田 晃治	薬学教育協議会 事務局長	
10:05	P	タスクフォースのスキルアップに向けて(1)	作業説明: 大野		10分
			「薬剤師教育相応しい学習目標を表す動詞を考えてみよう」		
10:15	S	SGD			70分
11:25	P	発表(各グループ3分)	総合討論(15分)		35分
12:05		昼食(情報交換会)	司会 : 小佐野		60分
13:10	P	タスクフォースのスキルアップに向けて(2)	作業説明: 阿部		10分
			「学習目標の動詞が変わると、何が変わる?」		
13:20	S	SGD			70分
14:30	P	発表(各グループ5分)	総合討論(15分)		45分
15:15		コーヒーブレイク			10分
15:25	P	特別講演	中島宏昭先生	司会 : 小佐野	45分
16:10	P	情報提供	平田 ws委員長		30分
16:55	P	講評	厚生労働省、文部科学省	司会 : 平田	5分
17:00	P	閉会			

報告書
 「概要と感想」または「セッション報告」

提出期限: 25年1月15日(火)
 提出先: 薬学教育協議会 関藤 宛
 E-mail: m.sekitoh@r3.dion.ne.jp

作業説明 part-1

**SBOに使える動詞を
 考えてみよう**

はじめに

タスクフォースとして、

- ・ WSのフロダクトに満足していますか?
- ・ より良いフロダクトを持ち帰ってほしいですね。

作業説明 part-1

セッション「目標」での説明事項

1. カリキュラムとは、三要素
2. ニーズ, GIO, SBOs, タキソノミー
3. コース, ユニット, 関連ユニット
4. 「目標」作成の作業説明



90分間のSGD

参加者のSGDでの咳き

- 略語が多いな……
- 日頃、意識しないテーマだな……
- よし、ペーパードライバーの例を参考にしてみよう。
- 「動詞(例)」を使って、何とか作ってみよう。
- おっと、あと1時間しかないぞ。

資料の参加者の行動への影響

- 旧ペーパードライバーでは、「……知識、技能、態度を身につける」が、圧倒的に多かった。
- 新ペーパードライバーでは、「知識」+「技能」+「態度」の3文構成のGIOが多くなった。
- 「動詞(例)」を見ながら、領域を考えてSBOsを作成している。
- タスクフォースの助言が、強い影響力を持っている。

学習目標記述のための動詞 (例)

現行、業学版

一般目標 (GIO) 記述のための動詞の例					
知る	認識する	理解する	感じる	判断する	価値を認める
評価する	位置づける	考察する	創造する	採擇する	身につける
など					
行動目標 (SBO) 記述のための動詞の例					
認知領域 (想起、解釈、問題解決)					
列記 (形) する	述べる	具体的に述べる	記述する	説明する	
分類する	比較する	対比する	類別する	類別する	
関係づける	予測する	同 (特) 定する	選択する	予測する	
等 (異) 別する	推論する	公式化する	一般化する	使用する	
応用する	適用する	知識する	など		
精神運動領域 (技能)					
測定する	始める	模倣する	熟練する	工夫する	実演する
行う	創造する	感じる	操作する	動かす	触れる
調べる	準備する	など			
情意領域 (態度・習慣)					
行う	尋ねる	助ける	コミュニケーションする	討論する	参与する
示す	見せる	表定する	感じる	始める	参加する
応える	配慮する	相談する	など		反応する

(注) 上記は例示であって、必ずしもこれらに限定するものではない。

1. 一般目標 (GIO) 記述のための動詞の例 (包括的)

修得する	身につける	理解する	創造する	位置づける
価値を認める	知る	認識する	など	

WSガイドの動詞表 (医学教育学会)

2. 個別行動目標 (SBOs) 記述のための動詞の例 (行動的)

(1) [知識] (想起、解釈、問題解決)					
列記 (形) する	述べる	具体的に述べる	記述する	説明する	
分類する	比較する	対比する	類別する	等 (異) 別する	
関係づける	予測する	同 (特) 定する	選択する	予測する	
公式化する	一般化する	推論する	選択する	使用する	
応用する	適用する	など			
(2) [技能]					
測定する	実施する	模倣する	熟練する	工夫する	
触れる	行う	調べる	操作する	動かす	
準備する	手配する	視診する	聴診する	触診する	
打診する	など				
(3) [態度・習慣]					
協議する	配慮する	参加する	コミュニケーションする		
討論する	尋ねる	示す	見せる	助ける	
感じる	行う	相談する	参与する	反応する	
応える	など				

(注) 上記は例示であって、必ずしもこれらに限定するものではない。

学習目標記述のための動詞 (例)

現行、業学版
赤枠は業学だけに
ある動詞

一般目標 (GIO) 記述のための動詞の例					
知る	認識する	理解する	感じる	判断する	価値を認める
評価する	位置づける	考察する	創造する	採擇する	身につける
など					
行動目標 (SBO) 記述のための動詞の例					
認知領域 (想起、解釈、問題解決)					
列記 (形) する	述べる	具体的に述べる	記述する	説明する	
分類する	比較する	対比する	類別する	類別する	
関係づける	予測する	同 (特) 定する	選択する	予測する	
等 (異) 別する	推論する	公式化する	一般化する	使用する	
応用する	適用する	知識する	など		
精神運動領域 (技能)					
測定する	始める	模倣する	熟練する	工夫する	実演する
行う	創造する	感じる	操作する	動かす	触れる
調べる	準備する	など			
情意領域 (態度・習慣)					
行う	尋ねる	助ける	コミュニケーションする	討論する	参与する
示す	見せる	表定する	感じる	始める	参加する
応える	配慮する	相談する	など		反応する

(注) 上記は例示であって、必ずしもこれらに限定するものではない。

1. 一般目標 (GIO) 記述のための動詞の例 (包括的)

修得する	身につける	理解する	創造する	位置づける
価値を認める	知る	認識する	など	

WSガイドの動詞表 (医学教育学会) 青枠は、業学にはない

2. 個別行動目標 (SBOs) 記述のための動詞の例 (行動的)

(1) [知識] (想起、解釈、問題解決)					
列記 (形) する	述べる	具体的に述べる	記述する	説明する	
分類する	比較する	対比する	類別する	等 (異) 別する	
関係づける	予測する	同 (特) 定する	選択する	予測する	
公式化する	一般化する	推論する	選択する	使用する	
応用する	適用する	など			
(2) [技能]					
測定する	実施する	模倣する	熟練する	工夫する	
触れる	行う	調べる	操作する	動かす	
準備する	手配する	視診する	聴診する	触診する	
打診する	など				
(3) [態度・習慣]					
協議する	配慮する	参加する	コミュニケーションする		
討論する	尋ねる	示す	見せる	助ける	
感じる	行う	相談する	参与する	反応する	
応える	など				

(注) 上記は例示であって、必ずしもこれらに限定するものではない。

第一回医学教育WS (日本語版)

使用する動詞

一般教養目標記述のため				
分析する	計算する	解釈する	認識する	類別する
適用する	創造する	知る	理解する	採擇する
価値を認める	位置づける	考察する	話す	使用する
了解する	評価する	位置づける	考察する	記す
個別の学習目標記述のため				
実演する	書きなぞる	再構成する	別の表現する	書きなぞる
尋ねる	予測する	組みなおす	言い換える	単純化する
要する	質問する	命名しなおす	作りなおす	合成する
設計する	再構成する	再構成する	言いなおす	単純化する
一般化する	再構成する	順序をつなげなおす	修正する	変更する
修正する				
複雑な、論理的、判断的行動				
分析する	結論する	深えきする	公式化する	計測する
評価する	対比する	筋節する	ひらき出す	理解する
要する	質問する	関係づける	帰納する	代用する
結論する	決定する	説明する	推論する	
一般的弁別行動				
選ぶ	発見する	測定する	組み合わせる	認識する
集める	区別する	指示する	除外する	採擇する
定義する	分類する	構築する	整理する	選択する
記述する	目立たせる	リストを作る	選びとる	分類する
その他				
測定する	思い出す	認識する	選ぶ	説明する
記述する	説明する	合成する		

第一回医学教育者WS
(英語版)

ILLUSTRATIVE VERBS

For General Instructional Goals				
Analyze	Compose	Interpret	Perform	Translate
Apply	Create	Know	Recognize	Understand
Appropriate	Demonstrate	Listen	Speak	Use
Conquerment	Evaluate	Locate	Think	Write
For Specific Learning Objectives				
"Creative" Behaviours				
Alter	Paraphrase	Reconstruct	Rephrase	Rewrite
Ask	Predict	Regroup	Restate	Simplify
Change	Question	Rename	Restraint	Synthesize
Design	Rearrange	Rearrange	Retell	Systematize
Generate	Recombine	Reorder	Revise	Vary
Modify				
"Complex, Logical, Judgemental" Behaviours				
Analyze	Conclude	Deduce	Formulate	Plan
Appraise	Contrast	Defend	Generate	Structure
Combine	Convince	Evaluate	Induce	Substitute
Compare	Decide	Explain	Infer	
General Discriminative" Behaviours				
Choose	Detect	Identify	Match	Place
Collect	Differentiate	Indicate	Omit	Point
Define	Discriminate	Isolate	Order	Select
Describe	Distinguish	List	Pick	Separate
Other				
Identify	Recall	Recognize	Choose	Explain
Describe	Solve	Synthesize		

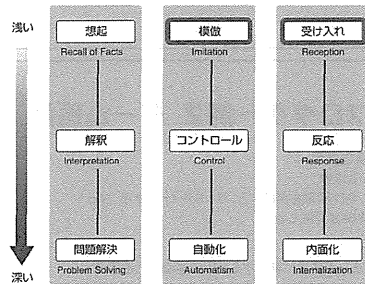
第一回医学教育者WS
(日本語版)
「ミドリ」は薬学用語と共通

使用する動詞

一般教育目標達成のため				
分析する	計算する	解釈する	実施する	翻訳する
適用する	創製する	知る	認識する	理解する
適切な	示す	観察する	話す	使用する
克服する	評価する	位置づける	変更する	記す
個別的学習目標達成のため				
創造的行動				
変更する	書きなぐす	再構成する	別の表現する	書きなぐす
尋ねる	予測する	再構成する	言い換える	単純化する
変える	質問する	名前をなぐす	作り出す	合成する
設計する	再構成する	再構成する	言い換える	単純化する
再設計する	再結合する	順序をつなぐ	修正する	変更する
修正する				
複雑な、論理的、判断的行動				
分析する	結論づける	推論する	推論する	計画する
評価する	対比する	推論する	推論する	推論する
結合する	推論する	推論する	推論する	推論する
比較する	決定する	説明する	推論する	推論する
一般的判断的行動				
選ぶ	発見する	認識する	組み合わせる	配置する
集める	区別する	指示する	除外する	推論する
定義する	区別する	区別する	区別する	推論する
区別する	自立させる	リストを作る	並びかえる	分類する
その他				
記述する	思い出す	認識する	選ぶ	区別する
記述する	説明する	合成する		

参加者の「目標」作成能力

初見で、初めて行う作業である。



WSフロダクト

- 初見で作業をする。
- 見本に頼る。
- タスクフォースに頼る。
- 薬学教育にふさわしい動詞の例を提供すると、フロダクト(報告書を含む)が良くなるのでは。
- タスクフォースの個性・特性・習熟度に寄らず、全国共通した方向性が示せるのでは。

演習問題にも、様々な動詞がいろいろです。

- | | |
|--|--|
| 1. アトロピンの心臓に対する作用をリストアップできる。 | 1. アトロピンの心臓に対する作用をリストアップできる。 |
| 2. 糖尿病患者の臨床症状と検査所見から重症度を判定できる。 | 2. 心臓カテーテルの検査のデータを見て、患者が心不全に陥っているかどうか判断できる。 |
| 3. ケオフォリンのTDMの結果にもとづき、投与量や併用薬剤の変更の必要性を指摘できる。 | 3. 病状の種別と実質性の種別とを打撃で差別できる。 |
| 4. 薬袋に記載すべき事項を列挙できる。 | 4. 骨髄液の検査データを見て、貧血が失血、造血異常あるいは血球破壊のいずれによって起こったかを指摘できる。 |
| 5. 服薬指導に先立って適切なインフォームドコンセントを取得する。 | 5. 病歴聴取に際して、患者の心理状態に関する情報収集に関心を示す。 |
| 6. 薬物中毒患者の血漿から原因薬物の測定と定量ができる。 | 6. 必要に応じて患者の問題をソーシャルワーカーと討議する。 |
| 7. 腹腔内臓器の主要な機能を列挙できる。 | 7. 外挿動脈の第1次分枝をリストアップできる。 |
| 8. 服薬指導の際に患者の心理状態に配慮する。 | 8. 静脈注射の際、種々の臨床所見および検査結果に基づき、治療方針を決定できる。 |
| 9. 病歴聴取に関して、患者の情緒の状態に関する情報収集に関心を示す。 | 9. 上大静脈にカテーテルを挿入できる。 |
| 10. 注射剤の混合操作を実施できる。 | 10. 診察に際して、患者の心理状態に配慮する。 |

作業

「動詞表(例)を見直してみよう」

- 追加すべき動詞をリストアップする。
(GIO, SBOs)
- 21世紀という時代背景を意識して。
- 卒業時の学生に求められる薬剤師としての基本的な資質を意識して。
- 実務実習(薬学教育全体を含む)を意識して。
- 構造化で発表する。
- 追加した動詞を用いたSBOを列記する。
- 例: 患者さんの状況に応じて適切に検察する。

討議 70分
発表 3分
(A-B-C-D-E)
総合討論 15分

2. セッション2 「学習目標の動詞を変えると何が変わる？」

(慶應義塾大学・阿部芳廣)

(1) 昼食前

<p style="text-align: center;">セッション2 作業説明</p> <p style="text-align: center;">学習目標の動詞を変えると 何が変わる？</p>	<p style="text-align: center;">午後の作業について</p> <p>(1) 昼食後の作業に用いる資料を配付します。 作業は: 2つのフロダクト例のSBOsについて、表現と、動詞 を変えることで、領域や、どこまで学生が学ぶか (深さ)、がわかるように変更する。</p> <p>(2) 「知識」と、「態度または技能」のSBOを一つずつ選 び、深さ、領域の変更をした後、そのSBOに対する 方略と評価を作成する。</p> <p>(3) グループが担当するフロダクトは昼食後決定します。</p>
<p style="text-align: center;">フロダクト例1 セルフメディケーション</p> <p>コース: 薬局実務実習 ユニット: セルフメディケーション 関連ユニット: 薬局調剤を実践する、地域で活躍する薬剤師、薬局カウンターで学ぶ など 対 象: 5年実務実習生2名</p> <p>【学習目標】 GIO: 地域住民が健康に生活できるようにするために、セルフメディケーションの 重要性を理解する。</p> <p>SBOs: 1) セルフメディケーションについて説明できる。(知識) 2) 生活習慣病とライフスタイルの関連性を列挙できる。(知識) 3) OTC、漢方、サプリメント、健康食品について一般基礎知識を習得する。(知識) 4) 症状から病気を予測し、必要なら受診勧告ができる。(技能) 5) なんでも相談してもらえる雰囲気作りができる。(態度) 6) 接遇を身につける。(態度)</p>	<p style="text-align: center;">フロダクト例2 チーム医療</p> <p>コース: 病院実務実習 ユニット: チーム医療 関連ユニット: 病院調剤を実践する、ベッドサイドで学ぶ など 対 象: 5年実務実習生 5名</p> <p>【学習目標】 GIO: 学生がチーム医療に参加するための基礎能力を習得する。</p> <p>SBOs: 1) 医師・看護師の会話を理解する。(知識・態度) 2) 専門用語を判断し説明する。(知識・態度) 3) 臨床検査データを見て、処方を医師に提案する。(知識・技能) 4) カンファレンスの意義について説明できる。(知識・態度) 5) 資料を作成し効果的にプレゼンテーションを行う。(知識・態度) 6) 他の職種の人に貢献できるようにコミュニケーションする。(態度) 7) チーム医療を説明することができる。(知識)</p>
<p style="text-align: center;">昼食 & 情報交換</p> <p style="text-align: center;">1F 食堂</p> <p style="text-align: center;">60 分間</p> <p style="text-align: center;">ここに集合 13:15</p>	<p style="text-align: center;">作業 part 2</p> <p>(1) 担当するフロダクト例のSBOsについて、「知 識」と、「態度または技能」のSBOを一つずつ選 ぶ。</p> <p>(2) 表現と、動詞を変えることで、領域や、どこま で学生が学ぶか、(深さも考えて)変更する。</p> <p>(3) そのSBOに対する学習方法と評価を作成する。</p> <p>(4) できれば、フロダクトのSBOsをすべて直す。</p>

(2) 昼食後

作業 part 2

- (1) 担当するフロダクト例のSBOsについて、「知識」と、「態度または技能」のSBOを一つずつ選ぶ。
- (2) 表現と、動詞を変えることで、領域や、どこまで学生が学ぶか、(深さも考えて)変更する。
- (3) そのSBOに対する学習方法と評価を作成する。
- (4) できれば、フロダクトのSBOsをすべて直す。

フロダクト例1 セルフメディケーション

コース: 薬局実務実習
 ユニット: セルフメディケーション
 関連ユニット: 薬局調剤を実践する、地域で活躍する薬剤師、薬師
 対象: 5年実務実習生2名

A, D, E

【学習目標】
 GIO: 地域住民が健康に生活できるようにするために、セルフメディケーションの重要性を理解する。

- SBOs:
- 1) セルフメディケーションについて説明できる。(知識)
 - 2) 生活習慣病とライフスタイルの関連性を列挙できる。(知識)
 - 3) OTC、漢方、サプリメント、健康食品について一般基礎知識を習得する。(知識)
 - 4) 症状から病気を予測し、必要なら受診勧告ができる。(技能)
 - 5) なんでも相談してもらえよう雰囲気作りができる。(態度)
 - 6) 接遇を身につける。(態度)

フロダクト例2 チーム医療

コース: 病院実務実習
 ユニット: チーム医療
 関連ユニット: 病院調剤を実践する、ベッドサイドで学ぶ など
 対象: 5年実務実習生 5名

B, C

【学習目標】
 GIO: 学生がチーム医療に参加するための基礎能力を習得する。

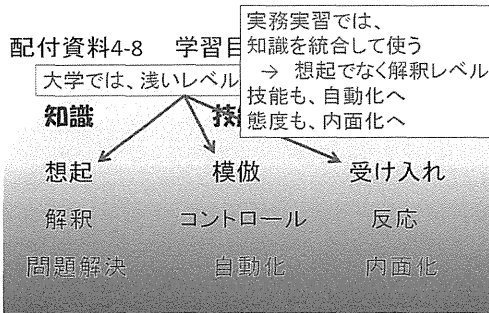
- SBOs:
- 1) 医師・看護師の会話を理解する。(知識・態度)
 - 2) 専門用語を判断し説明する。(知識・態度)
 - 3) 臨床検査データを見て、処方を医師に提案する。(知識・技能)
 - 4) カンファレンスの意義について説明できる。(知識・態度)
 - 5) 資料を作成し効果的にプレゼンテーションを行う。(知識・態度)
 - 6) 他の職種の人に貢献できるようコミュニケーションする。(態度)
 - 7) チーム医療を説明することができる。(知識)

作業上の注意点

- 実務実習のユニットなので、体験型に
→ 知識より、技能、態度のSBOへ
- 知識のSBOは、深さも考える
- 技能は、運動技能のこと
- 態度・習慣は、情意領域

技能・態度も
深さを考えて

SBOの深さ



発表例

ユニット名: 「医療倫理と薬剤師」 Aグループ

SBO3) ○○○を理解する(知識)
 ○○○を実践する(技能)
 → 学習方法と評価は、講義(90分)
 → 見学(分×2回); レポート
 ロールプレイ....
 実習....

SBO6) ○○○について討議する(態度)
 ○○○の背景を聴く(態度)
 → 学習方法と評価は、講義(90分); SGD(90分2回)
 ロールプレイ(10分×20回); シミュレーション(SP)
 模造紙で発表

SBO作成の作法

- 主語は学習者
- 目標はRUMBAで
- SBOの領域は、指導者が指定する
- 一つのSBOに動詞はひとつ
- 一つのSBOに領域はひとつ

討議 70分
 発表 (5分)
 (B-C-D-E-A)
 総合討論 25分

資料 6-3

配布資料

1. プロダクト例 (1)

- ・コース：薬局実務実習
- ・ユニット：セルフメディケーション
- ・関連ユニット：薬局調剤を実践する、地域で活躍する薬剤師、薬局カウンターで学ぶ など
- ・対象：5年実務実習生2名

【学習目標】

G I O :

地域住民が健康に生活できるようにするためにセルフメディケーションの重要性を理解する。

S B O s :

- 1) セルフメディケーションについて説明できる。(知識)
- 2) 生活習慣病とライフスタイルの関連性を列挙できる。(知識)
- 3) OTC、漢方、サプリメント、健康食品について一般基礎知識を習得する。(知識)
- 4) 症状から病気を予測し、必要なら受信勧告ができる。(技能)
- 5) なんでも相談してもらえる雰囲気作りができる。(態度)
- 6) 接遇を身につける。(態度)

【学習方略】

LS	SBOs	学習方法	場所	人的資源	物的資源	時間	予算(円)
1	5.6	見学	薬局	薬剤師1名	なし	全期間	なし
2	1	講義	研修室	薬剤師1名	プリント・教材	30分	なし
3	2	セミナー	研修室	薬剤師1名	関連資料・文献・ネットetc	45分×3	なし
4	3	講義・見学	研修室	薬剤師1名	プリント・教材	90分×3 (漢方3時間)	なし
5	2.3	ケーススタディ	研修室	薬剤師1名	なし	60分×3	なし
6	4.5.6	ロールプレイ	研修室	薬剤師1名 事務員1名 (SP)	なし	60分×2	1,000円